

みなさん、明けましておめでとうございます。

今日から3学期。「おはよう」の挨拶で、皆さんを迎えることができました。よかったです。

さて、私たち人間や様々な動物、植物などが共に生きているこの地球。昨年末には、この地球上でただひとつ、感染者のいない大陸であった南極大陸でも感染者が確認され、今、この地球という星全体が新型コロナウイルスに覆われてしまいました。ですから新型コロナウイルスの感染拡大はなかなか収まる気配を見せません。東京のほうでは明日、緊急事態宣言が出されるようですが、京都でも昨日は100人を超える新規感染者が確認されました。今後ますます、みなさんの身近な人がPCR検査を受けたり、あるいは陽性となったりということが起きるでしょう。私自身も、今、皆さんに向かってこんなふうに元気に話しかけていますが、実はもう感染していて、今日の夕方から熱が出て、検査の結果、陽性と診断されるかもしれない。だからこそ…。

「かもしれない」。「感染しているかもしれない」。だから他の人に移さないようにマスクをつけます。くっつき過ぎないようにし、大声でもしゃべりません。

「かもしれない」。「手で触るものにはウイルスが付いているかもしれない」。だから石けんで手を洗います。指の先まで、きれいに洗い流します。

「かもしれない」と考えること。その上で、「マスク」「手洗い」「くっつき過ぎない」をしっかりと守ってください。

コロナウイルスにかかわらず、「かもしれない」という考え方は、ちょっとだけものの見方を変えてくれます。「あの人、困っているかもしれない」。「あいつ、あんなこと言ってたけど、本当は違うかもしれない」、など。この「かもしれない」を実践していってください。

さて、年末に娘が孫を連れて遊びに来っていました。いちばん小さな孫はまだ10ヶ月。ちょっと早いのですが、もう歩き始めています。この男の子が好きなのが「アンパンマン」。テレビでアンパンマンをつけていると、集中してずっと見ています。このアンパンマンの作者は「やなせたかし」さんといいますが、やなせさんは、こんな詩を作っています。

なにかをひとつ／しるたびに／なにかひとつの／よろこびがある

なにかをひとつ／まなぶたび／なにかがひとつ／わかってくる

もっとしりたい／まなびたい／無限の道を／すすみたい

—「なにかをひとつ」 やなせたかし —

3学期は53日間しかありません。6年生は52日。これだけの日を藤城小学校で過ごしたら、ひとつ上の学年になります。6年生は「中学生」になります。電車やバスに乗るのも「大人料金」となります。

いわば、「次につながる」準備となるのが3学期。つなぐためには、「今」がしっかりとしないと、いつたんつないでもちぎれてしまいます。切れてしまします。「次につながる」ための、しっかりとした「今」を作ること。そのためにはどうしたらいいのか？

ヒントは先ほどの詩にあります。毎日「なにかをひとつ」知りましょう。「なにかをひとつ」学びましょう。そうすれば、先ほど読んだやなせさんの詩のように、「わかる喜び」につながります。こうなると…、あら不思議。もっと知りたい、もっと学びたいとなるんです。そうなればしめたもの。心配なく「次につながり」ます。53日間の3学期。「なにかをひとつ」知り、学ぶ毎日で、次につながる力を付けていきましょう。

以上、「かもしれない」と「なにかをひとつ」を始業式のお話しとします。